

ここが聞きたい Q & A

— 第7回 (12月) 定例会 —



23年12月定例会は、12月7日、8日に開かれ、報告5件、条例関係3件、補正予算3件、規約変更1件を原案どおり可決し閉会した。

■専決処分の報告

◆工事名

22年度(繰越)農山漁村地域整備交付金事業林道松原線開設工事

契約金額が62万6千円増額し6、698万6千円。

契約の相手方

(株)仁淀工業

変更に伴い工期を24年2月28日まで延長。

◆工事名

23年度道整備交付金事業町道寺村線改良工事

契約金額が36万6千円増額し9、203万1千円。

契約の相手方

(株)不二土木

◆事故の概要

23年7月29日に町道桂線を通行中の自動車に側溝蓋が跳ね上がり損害を与えた事故。

①内容

町は相手方に9万7、860円を支払う。

町及び相手方は、本件に関し一切の債権債務関係がないことを確認する。

◆事故の概要

23年8月22日に町道本村遅越線を通行中の自動車に側溝蓋が跳ね上がり損害を与えた事故。

内容

町は相手方に11万1、816円を支払う。

町及び相手方は、本件に関し一切の債権債務関係がないことを確認する。

◆事故の概要

23年9月17日に農道吾川東線支線を自動車で通行中に道路が陥没し、左前輪が落ち込み自動車に損害を与えた事故。

内容

町は相手方に23万871円を支払う。

町及び相手方は、本件に関し一切の債権債務関係がないことを確認する。

■観光センター等の設置及び管理に関する条例

この条例は観光センターなどの施設を開発公社が、24年3月31日をもって解散するため、町が直営で管理運営を行うことができるようダム周辺の環境整備施設設置及び管



観光センター

理に関する条例を廃止し、新たに条例を定めるもの。施行日は24年4月1日から。

問 橋本眞一議員

この条例では直営でとなつていますが、指定管理を受けられるものはいなかったのか。

答 下方仁淀総合支所長

今まで開発公社が指定管理者となり1年契約でやっていた。それまでも地元で誰かいないかと模索したが、適した管理運営をする団体がいなかった。今回、直営でと条例の提案を行った。



問 山口芳正議員
食堂、喫茶店は、継続の考えか。

答 仁淀総合支所長
直営になっても業務内容(レストラン、宿泊施設など)は、従来どおり。



仁淀第二製茶工場

問 橋本議員

池川の安居溪谷宝来荘の管理者が、来年3月で辞めたいというが、これも誰もいかなかったら直営にするのか。

答 大石町長
宝来荘は、現在やっている方が辞退したいと聞いているが、なんとか地域でこれを生かしている方はいないか、現在検討している。
(全員賛成)

■特別会計設置条例の一部改正

この条例改正は観光センターなどの施設の管理運営を町が行うために必要な特別会計を設けて仁淀川町観光センター等管理運営事業特別会計を追加するもの。
施行日は24年4月1日から。
(全員賛成)

■池川放送施設の設置及び管理に関する条例を廃止する条例

この条例廃止は町行政防災無線の運用開始に伴い20年3月31日をもって放送を停止し、各家庭の受信機を撤去していた池川放送施設について、県との協議が終了し、24年3月末日をもって廃止するもの。
(全員賛成)

■23年度一般会計補正予算(第4号)

4億1,203万5千円を追加し、総額を71億3,745万3千円とする。

問 農本規仁議員

農業確立総合支援事業の説明を。



答 吉田仁淀地域振興課長
この補助金は沢渡地区の第二製茶工場の機械施設の更新を行うもので、

県の補助金でボイラー、蒸し器、コンピューター制御施設の更新を行う。

問 農本議員

保育所運営委託料の説明を。



答 谷平教育次長

保育園で主任加算や園児数の増加、またゼロ歳児の入所の増加などで委託料の増加となっている。

問 岡田良成議員

重機をリースすることが町にとって安価なのか。月いくら支払っているか。



答 産業建設課長
一台の重機リース料は月13万円位。

町道、林道などは幅員が狭く、2tのダンプで運べる位の重機を使用して充分検討していきたい。
(全員賛成)

■23年度国民健康保険特別会計直診大崎診療所勘定補正予算(第2号)

予算の組換えで、補生前の額と同額の2億1,451万6千円。
(全員賛成)

■23年度介護保険特別会計補正予算(第2号)

213万8千円を追加し、総額を11億6,114万円。
(全員賛成)

■高吾北広域町村事務組合規約変更

法改正に伴い知的障害者更生施設を障害者支援施設に改め高吾北広域町村事務組合規約を改める。
(全員賛成)

議員研修報告

長野県下篠村 石川県羽咋市

県外視察研修 2泊3日 職員9人、事務局2人、職員4人

10月3日5時10分長者を出発、10時間バスに揺られ下篠村に15時に到着。

下篠村（長野県）

10月3日、15時30分から16時30分まで、下篠村役場別館、3階会議室で、宮島総務課長。

明治22年に睦沢村と陽皇村が合併で下篠村。昭和33年の昭和の大合併では、議会を解散したが、合併に至らず。

平成の合併は、20歳以上のアンケートで、圧倒的に自立。平成16年に自立宣言。

面積 37.66km²
人口 4,179人

(2010年10月1日)

村の木 ハナノキ
村の花 コスモス

下篠村の出生率は国の1.34人に対し、2.04人。村の人口4176人のうち14歳が70人を占める。

平成4年に伊藤喜平村長が当選し、人口増の施策を進める。

村独自の子育て支援を充実。

村営住宅60㎡、2LDK、駐車2台で、3万6千円。飯田市の半額の家賃、若い夫婦に人気があり、20組待ち。

補助金は、入居の条件、家賃の設定などしぼりがあり、起債、一般財源で、一棟、1億7千万円ほどで、9年から10年間で10棟を建築、124戸360人が入居、実質300人の人口増。

入居条件は「子供がいる」「これから結婚する」「自治会、消防団に入り、行事への参加」。

平成16年から中学生の医療の無料化とする。昨年からは高校生まで無料化を拡大している。

子育て応援基金の設立、20年度より3年間で4億円積立て、利子が上がった時に財源とする。

村づくりは人づくりで学校教育改革（学校を変えなげや駄目）、学力は学校に任せ、将来子供が村に帰ることを目的とし、ふるさと塾を19年から開催し、村を知ってもらう。

村のあらゆる職種に携わる人にゼミ形式で4、6年生に教えてもらい、村を知ることから入った。

生徒会議会は中学3年生が一般質問方式で行い、実際の議員質問では無理だった案件も、生徒会議会では街灯80万円を村長が認めた経過があり、生徒の言ったことが活かされる議会を実践。

国際化時代に対応と、海外研修を7年から、香港、マカオ、台北へ、数年はグアム島にホームステイで、3泊4日、語学、異文化を体験する。

費用は15万円、村が半額補助。

健全な財政運営

職員38人で、特別職を除けば25人となる。嘱託が26人。住民千人に対する職員数は、下篠村は8.16人。22年総務省調で類似団体は19.6人。

資材支給事業は、行政が全てやってくれる風潮に。住民でできることは住民でやる方針を打立て、生活環境の整備、生活道、

農道、水路などを資材支給で住民が施行。

4年〜21年までに2億6千万円、1300カ所が行われた。

天竜峡インターができて、愛知県庁に1時間40分と便利がよくなり、21年に村長がトップセール

スで村で用地買収、造成し、液晶会社を誘致。

昨年6月創業で、業績が良く、同じ2千㎡を増築している。雇用は60人。

職員は悪くない、トップの姿勢次第と伊東吉平村長は言う。



下篠村 村営住宅（月36,000円 駐車場2台付）

羽昨市(石川県)

10月4日、14時から16時30分まで羽昨市神子原公民館で羽昨市1・5次産業振興室、総括主任、高野誠鮮氏。

明治22年に町制施行に伴い羽昨町が誕生、昭和33年に市制施行で、羽昨市となる。

面積 81.96km²
人口 22,852人
(2011年7月1日)

市の木 クロマツ
市の花 サツキ
市の鳥 ハクチョウ

神子原地区の高齢率54%を5年間で47.5%に、限界集落から脱却。

平成17年に1・5次産業室、スタッフは1・5人、高野主幹と一人は畜産と兼務。年間予算60万円。過疎と高齢が問題で金額の問題ではない。なぜできなかったか、従来のやり方、何千回の会議、部厚い計画書では、高齢化は止まらない。切れた電球は新しく替

える作業をしないと、その下で替える議論では明るくならない。原因の究明は徹底的にし、地域に合った対応をする。

社会の構成単位は人の集まりで、地域、市町村、県、国となる。

人の体でいえば、両手は市町村で、手に怪我をすれば、治療となる。

今の社会は治療しない。痛みが伝わらないのが現状。治療、リハビリをし、血流を良くするしかない。血はお金で、過疎高齢化には治療とリハビリが必要。

農家は販売を農協に任せている。その農協に「農協の協は、狂ではないか」と言ったら「喧嘩に来たか」と怒られた。(後に理解される)米価が下がっても農協職員の給料は下がらない。

農業者の一年間の所得は87万円、農協職員は約500万円、真剣に考えていたきたい。農業の最大の欠点は、自分で希望小売価格が決めれないこと。

価格が決めれるブランド化戦略

最初の説明会で、160戸中、100戸ほどが集まる中、役場の補助金、農協の支援を受けず、自分で作ったものに、自分で値段を付け、売ることを提案したが、賛成は3戸、他は「安くても全量農協に出せば、全部売れる。」「赤字補填がない限り」反対。

役所で売り、売れば農家でやる約束をとった。

山の清水で作った神子原米を、皇室、ローマ法王に献上を申し込み、ローマ法王に献上となったと報道され、老舗のデパートで裕福層などへの販売で2年間、役所で売り、農家出資の会社作りを提案した。

失敗したらと常にマイナス思考。同じ質問に、同じ答えの会議が45回開かれるなか。一人が手を挙げ、「パチンコで2時間で2万円すった。負けたら2万円を出資する」と言った会社ができる」と言ったこと

とで反対者が無くなった。直売所、加工場を女性の意見を全て取り入れ、保冷庫は男性の意見で造った。

19年7月に創業約半年で黒字、翌年には147戸に出資農家が増えた。

集落の中には必ず賛成、反対、無関心はいる。最初から赤字になる会社には、出資する馬鹿はいないといっていたが、結果次第で、どうにでも変わる。人間って面白い。

鳥帽子新農家制度で、古来の風習を活用し、旅館業法、法の適用を受けないで農家が都会の住民を受け入れる。

現在28戸の運営、大学生を対象に夏、冬場の2回受け入れ。

空農家、農地の情報バンク制度で、12戸、35人が移住。若者定住、移住には、地域役員の質問攻めを行い、決意を知り決定。お客様では地域で不調和が起こり、長続きしない。

高齡化の地域に、岐阜県から30歳の夫婦が移住。

農家でカフェ、レストランを創業。一日平均35人客がある。

18年間子どもがいなかった集落、3人の子どもはおらが在所の子として怒り、ほめ、育てている。

オーナー制度では、山の水だけで作る米のオーナー募集を国内にはせず、英文で世界中に発信、イギリス領事官がオーナーになったことが報道され、国内募集定員40人に100組以上の応募となった。

60kgの玄米、1万3千円が40kgが3万円。損か得か。

オーナー制度でやれる作物は全てやり、農家との交流を図った。

役所、農協などの職員には、「いてもいなくてもいい」、「いやや困る」、「いなくてはならない」職員がいるが、それは本人の意識次第であると高野主幹は言う。

(片岡政徳)



神子原地区(羽昨市)での研修